

毎日歌壇

伊藤 一彦 選

「神でさへ他の意見を訊いたのに」天安河原は語りくるなり
横浜市 谷口 菜月

△評▽就任するや「大統領令」を次々に出す大統領に
対する皮肉。神話をもってきて神々でさえも協議した
のにといいのがいい。

見る角度変えれば汚れのあらわれる僕の心のような窓拭く
富士見市 松本 尚樹

△評▽繊細で潔癖な作者ならではの歌である。上の句
の窓拭きの場面の表現が鋭い。

遠目には枯れているかのようにあり冬木立のなか白梅が
咲く
東京 藤沢 静二

起立性調節障害に眠る子よ 真昼の闇に何の夢見る
福岡市 川波 麗

肩に垂る猫の自由な振る舞いの真似をできない勤め人た
ち
東京 小峯 和弘

フジテレビ会見のときの背景は朝焼けではなく日没寸前
名古屋 竹中 敬一

極寒の犠牲が草のまるで無い菜園の隅に小鳥の死骸
いわき市 吉田 健一

休診の札しずかにある硝子戸へ冬日は降るボトスのた
めに
武蔵野市 北谷 雪

まつすぐにカレーライス運びくる配膳ロボに無言の
労ひ
延岡市 河野 正

年一回十年続いたMRI 終わり安堵と一抹の不安
見附市 岡村 文子

米川千嘉子 選

戦争はゲームの中に集約し理想の敵をみんな倒す
駒ヶ根市 市山 利也

△評▽ゲームなら敵味方の別は明快。ルールがあつて
必ず勝負がつく。だが現実の戦争は? 「理想の敵」と
いうのが面白い。

君が着るコートに触れられないでいて黒いフードにしん
しんと雪
横浜市 砂月 七

△評▽もっと距離を縮めたいのにできない。黒いフー
ドにたまっていく雪が鮮やか。

ボラの子の鱈の形の髭をした△鱈背銀杏△の粹な江戸っ
子
甲府市 高瀬 孝人

朝に夕に呼んでもしんとして白骨の夫もう耳が無い
大阪府 森川 慶子

姪と言ふ他者の宿れる今週のわが家で新種の日本語を聞
く
東京 斑山 羊

勝ち目などなくてレンジであたためたソーラテにまた薄
湯葉の膜
鳥取市 中之島 潤

自販機にはじかれ続けし△漱石△は春日の巫女へお札料
金と
奈良 島 真澄

書の先生母君夫君を去年亡くしロボット授業教室に置く
野田市 片倉 伸明

「助けて」と医師に甘えたとき義母の介護の日々がふと
甦る
札幌市 佐々木さとし

八軒が出すゴミ置き場月二回新聞紙出すはわれひとりな
周南市 椋木 幸子

水原 紫苑 選

柑橘にあてる刃の刻一刻を興り亡んでゆく白い国
東京 碓井やすこ

△評▽白い国とは雪の国か、神の国か、言葉の国か。
かんきつとやいはの接点が生み出す特別な時空に私た
ちを招く作者。そこから来たのか。そこへ帰るのか。

項垂れて見るたそがれの池の面にのっぺらぼうが淋しく
揺れた
熊本市 中島 遊静

△評▽のっぺらぼうは誰か。あなたか私か、それとも
未知の誰か。

節分の豆を購ふにも困り果て貧しき鬼の生を得るらむ
相模原市 高田 祥聖

ああさうか、斬首されたる詩の神の血しぶきとして降る
のか 雪は
雲南市 熱田 一俊

勾玉のなかでも子持ち勾玉は昔の人の不思議な心
東京 野上 卓

氷柱花 花取り出そうところある 復讐といふこと
ばが寒い
平塚市 芝澤 樹

濃い影に誘われて入る森の中に木の歯車で動く精霊
枚方市 久保 哲也

半額のバーゲン品になってから我が家に来て来たのよ
リルは
倉敷市 中路 修平

憂鬱を「blue」と訳した人のまなうらに十一月の夜
はひろがる
さいたま市 雨谷 詩穂

あつ、雪と木霊する声透明で雪の白さが際立ってゆく
狭山市 りんか

歌壇選者の加藤治郎さんは都合によりお休みし、
他の選者3人で選歌を行います。ご了承ください。

投稿規定

はがき1枚に選者を指定し、未発表の自作を2首・2句まで。住所、氏名、年齢、職業、電話番号を明記し、宛先は〒100-8051(住所不要)毎日新聞学芸部、短歌は「毎日歌壇」、俳句は「毎日俳壇」、〇〇先生(希望選者名)係へ。毎日新聞デジタルの投稿フォーム

(<https://mainichi.jp/kadan-haidan/>)でも受け付けています。

他媒体との二重投稿や同一作品を複数の選者に投稿するのは厳禁。投稿は趣旨を変えずに添削することがあります。入選作は毎日新聞社の電子メディアやデータベース、アプリ「俳句てふてふ」で公開します。



こちらから
投稿できます